

会議記録（1）

会議名称	令和5年度第1回北本市自治基本条例審議会
開会及び 閉会日時	令和5年7月14日（金） 午前10時から正午まで
開催場所	北本市役所3階 会議室3-F
議長氏名	会長 西村一孝
出席委員 （者）氏名	佐藤利彦 田島和生 高松千恵子 上田久美子 安江洋 大島優子 西村一孝 北條規
欠席委員 （者）氏名	長島幸枝 大川原啓子
説明者の 職氏名	政策推進課 課長 浦直樹 同課政策推進担当 主任 國友裕太
事務局職員 職氏名	政策推進部政策推進課 課長 浦直樹 同課政策推進担当GL 高橋弘 同主任 國友裕太
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委嘱状交付 3 市長挨拶 4 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 前回審議会の振り返り (2) 市長との懇談会 (3) その他 5 閉会
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1 チェックシートの取りまとめ ・資料2 前回審議会の振り返り

会議記録（２）

発 言 者	発 言 内 容
政策推進課 長（事務局）	<p>1 開会</p> <p>本日は、大変お忙しい中御出席を頂きまして、誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまより「令和５年度第１回北本市自治基本条例審議会」を開会いたします。</p> <p>本審議会は北本市自治基本条例審議会規則第５条第２項の規定により、過半数の出席が必要です。本日は、委員１０名中８名の御出席を頂いていますので、会議が成立することを御報告いたします。なお、長島委員と大川原委員からは、事前に欠席の御連絡を頂いております。</p>
政策推進課 長（事務局）	<p>2 委嘱状交付</p> <p>本日の審議会から、大正大学地域構想研究所教授であります、北條規様を新しく審議会委員としてお迎えいたします。どうぞよろしく願いいたします。委嘱状につきましては、机上に配布をさせていただいておりますので、御了承ください。</p> <p>ここで北條様より自己紹介を頂きます。北條様よろしく願いします。</p>
北條委員	<p style="text-align: center;">【北條委員 自己紹介】</p>
政策推進課 長（事務局）	<p>3 市長挨拶</p> <p>それでは三宮市長より御挨拶を申し上げます。三宮市長お願いします。</p>
市長	<p style="text-align: center;">【市長 挨拶】</p>
政策推進課 長（事務局）	<p>4 議 事</p> <p>これより議事に入ります。議事の進行につきましては、北本市自治基本条例審議会規則第５条第１項の規定に基づき、会長に議長をお願いいたします。</p> <p>（１）前回審議会の振り返り</p>
西村会長	<p>はじめに、本日の懇談会を実施するに当たって、事務局から前回審議会までの振り返りをしてもらいます。事務局お願いします。</p>
事務局	<p style="text-align: center;">【事務局 前回審議会までの振り返り】</p>

会議記録（２）

西村会長	<p>（２）市長との懇談会</p> <p>それでは、市長との懇談会を始めます。</p> <p>今、事務局からあったように委員の皆様にも前回の審議会で、実際に住民による地域活動の現場に参加してもらい、資料１にまとめられているような感想を持つことができました。このことからまちづくりを推進する上では、実際に現場に出て、自ら体験することが大事だと委員の皆様も実感できたことと思います。</p> <p>では市民が実際に地域活動の現場に出て、地域と連携しながらまちづくりを進めるためにはどうしたらよいのでしょうか。</p>
安江委員	<p>前回参加をした「手話ベリかふえ」の会場となった「中庭」は、観光協会の岡野さんを中心にかつての同級生たちを集めて、若い世代が立ち上げたものでした。対象も若い世代となっており、北本市のシティブロモーション方針とも同じです。このような活動をする上で、課題と感じたのは世代間交流の難しさでした。</p>
上田委員	<p>前回の審議会で「手話ベリかふえ」に参加して、このような場所があることを知り、感動しました。「手話ベリかふえ」にも言えますが、地域の活動をもっと広く発信することが必要だと思いました。また、初めて一人で行く人が入りやすくする工夫も必要ではないかと感じました。</p>
西村会長	<p>審議会委員の皆様は、各団体の代表者として来ていただいているので、ぜひ所属している各団体に持ち帰っていただき、そこで広めていただきたいと考えています。</p>
佐藤委員	<p>私も知らせることが一番大事だと思います。団地の中には掲示板が２０カ所ほどありますが、必ずしも皆が掲示板を意識して見ているかというところではありません。北本団地の自治会では事務局ニュースというものを出していますので、そこでも追加で周知するというのが良いと思います。そこで必要なのが連携です。「中庭」を立ち上げた岡野さんたち若い世代と、自治会が連携して、お互いの活動を広報していく必要があると思いました。実際に高齢者たちの生の声で、「中庭」は若い人が多いので自分たちが行っているのかと躊躇していたり、入りにくいといった声がありました。</p>
大島委員	<p>私も「手話ベリかふえ」に初めて参加してみて、とても楽しかったです。しかしその活動を、友人などの他人に話すことはしませんでした。また、皆</p>

会議記録（２）

<p>西村会長</p>	<p>さんがおっしゃるように、情報の周知は必要だと思います。</p> <p>周知が必要という意見が上がりましたが、どうやって周知していくかという事が非常に難しいと感じています。広報だけでは文字が多いという事もありますし、SNSだけでは高齢者は情報を得にくい面もあります。広報やSNSも使いながら、前回の審議会での体験のように、実際に活動の現場に参加できる環境をつくり、それがきっかけで広がっていくという環境づくりも必要ではないかと思っています。</p>
<p>田島委員</p>	<p>周知をしたり取組みを広めようと思っても、それに興味を持ってくれる人はごく一部の人で、7割8割の人は興味を持ってくれないという現状もあるので、どうしたら興味を持ってもらえるのか工夫が必要になってくると思います。</p>
<p>北條委員</p>	<p>今までの懇談の中で、「知る」ということと「参加する」ということの話が上がりましたが、それは非常に大切な要素だと思います。世代間で情報ツールが異なってきた現状の中、どうやって周知するのか、興味を持ってくれる人を掘り起こし、どうやって参加したいと思ってもらえるのか、という視点です。あらゆる手段が考えられますが、これからの将来を担う若い世代を巻き込んで議論していくという事が必要ではないかと感じています。多様化の時代でもありますので、世代間での交流が図られ、連携していくというのが目指していく姿なのだと思います。</p>
<p>西村会長</p>	<p>委員の皆様もそれぞれの団体で活動されていますけれども、どの団体でも課題として挙がってくるのが、自分たちの活動をどうやって次の世代に引き継いでいくのかということです。北條委員の意見にもありましたが、若い世代を巻き込んでいくにはどうしたらよいか、という事について今後、委員の皆様と協議していきたいと思っています。</p>
<p>市長</p>	<p>皆様が活発に議論されていてうれしく思います。私は市長として持続可能なまちづくりにしていくためにはどうすべきか考えております。職員にも市民にも言えることですが、特定の人に負担がかかりすぎてしまうような仕組みでは持続していくことが困難であるため、担い手が無理のない範囲で関わることのできるアイデアがないものか皆様のお力をお借りできればと思っています。</p> <p>これまで、私が市長に就任してからは、若い世代をターゲットとしたまち</p>

会議記録（２）

	<p>づくりを進めてきました。一方で、先ほど佐藤委員がおっしゃられていたように高齢者にもきちんと対応してバランスの良いまちづくりをしなくてはいけないと思っております。また高齢者自身も自ら立ち上がってまちづくりに携わっていただけるような機運の醸成ができないものかと考えております。</p>
西村会長	<p>議論も深まりましたので、ここで懇談は締めさせていただきます。 それでは、以上で本日の議事を終了し、進行を事務局にお戻しいたします。</p>
政策推進課 長（事務局）	<p>５ 閉 会 ありがとうございました。 以上をもちまして、「令和５年度第１回北本市自治基本条例審議会」を閉会いたします。本日は長時間にわたり、誠にありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>